

沼久保地区

富士川舟運沼久保船場跡

慶長12(1607)年、徳川家康に命じられた角倉了以^{すみのくらりょう}によって富士川舟運^{ふじかわしゅうん}の航路が開削されました。

富士川舟運は、江戸時代から昭和初期まで、静岡県(駿河国)と山梨県(甲斐国)を結ぶ輸送の手段として利用されました。

沼久保には、船場(船着き場)があり、大宮町まで荷物を運搬する多くの人や馬が行き交いました。周辺には、船員が泊まる旅館や船を所有する輸送会社が立ち並び、物流や交通の拠点として栄えました。

沼久保には、山梨県から炭やムシロが送られてきたほか、沼久保からは、山梨へ茶や下駄、清水へ和紙の原料となる三桧や半紙、たばこなどを送りました。

しかし、流れの速い川での輸送は、危険で、死者が出たり、積荷が流されることもたびたび起きました。天候の影響を受けたり、積荷の量が限られたことから、しだいに、船から鉄道での輸送へ移行していきました。

明治36(1903)年に東京・甲府間に中央線が開通すると、富士川舟運は衰退し、さらに昭和3(1928)年に身延線全線が開通すると、輸送路として利用されなくなりました。

※1 国内河川の舟運整備に取り組んだ京都の豪商。

※2 船で荷物を運んだり交通したりすること。

船場跡には、船をつなぐための「めど切り岩」が残っています。



沼久保船場跡



めど切り岩



富士川舟運を復元した様子



歩く博物館 博物館 Pコース<沼久保地区> 渡船と舟運の跡をたずねるコース

市役所6階文化課、郷土資料館(文化会館内)、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。

HP トップページ>市民の皆さんへ>教育・文化・スポーツ>郷土資料館>歩く博物館



歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

- 料 500円
- 申 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で
- 他 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。
- 問 文化課 ☎22-1187
- ✉ e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

